

# 幼児を知ろう

## 1 本時の目標

親子の観察を通して、幼児の望ましい成長には心身の発達に応じて適切なかかわりが必要であり、子どもが育つ環境としての家族の役割について考えることができる。

## 2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
親子のかかわりについて、熱心に観察し、幼児の発達を支える家族の役割について考えようとしている。			幼児の発達を支える家族の役割について理解している。

## 3 展開例

時間	生徒の活動	教師の働きかけ、評価
2	○2組の親子を迎え、幼児を目の前にしての感想を発表する。	○年齢の違う幼児（1歳・4歳）の親子を迎え、自己紹介をしていただく。可能であれば、班ごとに親子に入ってもらえるよう6組の親子にお願いをする。 ○幼児に関心を抱かせる。
	<b>課題設定</b> — 学 習 課 題 — 親子のかかわりや子どもが育つ環境としての家族の役割について考えよう。	
10	○親子のかかわりを観察し、班で話し合いながら、気付いたことを書きとめる。（ワーク1） ○子育てについて質問したいことを考え、書きとめる。（ワーク2）	○幼児だけに目がいきやすいので、親の子への対応に注目するよう声かけをする。 ○子育てする上での喜びや苦労について引き出す。 ☆親子のかかわりについて、熱心に観察し、幼児の発達を支える家族の役割について考えようとしている。（関心・意欲・態度） ▼努力を要する生徒への手だて →友達の気付きを参考にさせ、もう一度親子のかかわりを観察するよう促す。
15	○親に質問する。友達の質問をよく聞き、同じ質問だったら「ワーク2」に書き込む。自分は考えなかった質問でも、大切な点はメモをする。	○時間が許す限り生徒の考えたすべての質問に答えてもらうようお願いをする。 ○同じ内容の質問なら、自分が質問者でなくても書き込ませる。

	○親子にお礼をいう。	○質問できないでいる生徒について、机間指導で発問を促す。
10	○質問の答えから感じたこと、気付いたことを班で話し合う。 ○話し合いから、幼児のまわりの大人が注意しなければならないこと、気付いたことを記入する。(ワーク3)	○お礼を述べ、親子に退席していただく。 ○親子がいると、そちらに注意が向いてしまい、次の学習に集中できない事も考えられるため退席していただく。 ○親子のかかわりの観察、質問に対するの答えなどを総合して考えるとともに、自分の小さかった頃を思い出して、親が自分にしてくれたことも気付かせる。 ☆幼児の発達を支える家族の役割について理解している。(知識、理解) ▼努力を要する生徒への手だて →親の答えの中からポイントになった話をあげ、アドバイスする。
10	○親子のかかわりを見たり、親の話を聞いたりした感想等を記入する。(ふりかえり)	○信頼関係や、愛情が根本にあることに気付かせる。
3	○次時について	○次時は自分史を作成することを通して、自分の成長を振り返ることを伝え、自分の小さい頃を知っている身近な人に話を聞き、情報を収集してくることを課題とする。

#### 4 指導上の留意点及びワークシートの活用について

- 本時では、幼児を取り巻く家族が愛情をもってかかわり、一生懸命育ててくれたことに気付く授業を設定した。次時は、自分の成長を振り返らせ、自分史に取りかかる学習であるが、先に自分史に取り組み、自分の成長を振り返らせた後、まとめとして本時の学習を扱うことも可能である。
- 生徒たちは様々な家族環境にあるため、プライバシーに関しては十分な配慮が必要である。授業を展開するにあたっては、事前に担任や学年担当職員から情報提供をしてもらい、生徒の家庭状況を把握し、授業展開においても『もしかすると家族に幼児時代のことを聞けない生徒がいるかもしれない…』と考え、細心の注意を払う必要がある。
- プログラム集P16、17のワークシート1、2は、自分の幼児期を振り返り、自分史製作の準備としての活用を考えたが、自分史に取り組まない場合でも、自分の幼児時代の振り返りの資料として活用することができる。